

## 『教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）』【教育文化学部】

教育文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。

### （教育課程編成方針）

1. 人文科学，社会科学，自然科学を横断統合し，主体的に学べる学際的なカリキュラムを構成する。
2. 初年次ゼミから卒業研究までの一貫した学習指導の体制を取り，学生のニーズに応じたカリキュラムを構成する。
3. 学部の共通科目として，人間発達に関わる科目を配することで，学部共通の基盤的な知識を習得できるカリキュラムを構成する。
4. 教養，基礎，専門科目の構造的・体系的な配置により，諸事象を多角的・多面的にとらえるカリキュラムを構成する。
5. 学生参加型授業を推進し，授業内容・方法の工夫・改善を図り，問題解決力や社会的実践力の育成に資するカリキュラムを構成する。

## 〔学校教育課程〕

### （教育課程編成方針）

1. 学校教育を中心に，人間発達に関わる基礎的，理論的な知識・技能を重視し，歴史的，国際的，科学的な視野を育てるカリキュラムを構成する。
2. 4年間を通じて段階的に教育実践科目を位置づけることで，理論と実践との往還をはかりながら授業実践力を身につけられるカリキュラムを構成する。
3. 地域の課題，地域の特色を積極的に取り入れた教材開発と授業デザイン力の育成を目指したカリキュラムを構成する。
4. 学校を訪問し実践に参加する学校ボランティアなど，大学と学校現場が密接に協力した授業などを設定する。
5. 自然科学や人文科学，芸術，スポーツに関する基礎的な知識・技能を育成するための授業を設定する。

### （学修方法・学修過程）

1年次では，教育・学習に関わる基礎的能力を身につけることを目的として，基礎教育科目群を中心に履修する。また，現場実践力の基礎を身につけるために実践科目群を履修する。

2～3年次では，人間を深く共感的に理解し，よりよい人間関係を構築しつつ，コミュニケーション能力を身につけるために実践科目群を履修する。平行して教育・保育関連分野の内容や指導法を専門科目群で学び，教育方法の知識や技術等の教育・学習に関わる実践力を修得する。

4年次では，教育・学習に関わる勉学の集大成として，実践的な研究に取り組み，高度に教育する能力を身につける。

## [地域文化学科]

### (教育課程編成方針)

1. 地域生活の実相と課題に対する認識を深めるために、統計処理やフィールドワークなどを組込んだカリキュラムを構成する。
2. 国際化という時代の要請に応えるために、外国語の実践的な言語運用能力の習得を目指したカリキュラムを構成する。
3. 講義、演習、実習・実験科目をバランスよく配して、実社会を見据えながら理論や知識の習得、スキルの獲得が行えるようにカリキュラムを構成する。
4. 地域学基礎や地域連携プロジェクトゼミ等、学生参加型・地域連携型の授業を推進し、問題解決力や社会的実践力の育成に資するカリキュラムを構成する。
5. 特定領域科目を設定し、専門的知見に基づく諸事象への洞察力を養うカリキュラムを構成する。

### (学修方法・学修過程)

1年次では、地域社会・人間文化を知り、実体験するために、幅広い分野の学術的基礎知識を身につけ、地域現場を学術的に実体験する。基礎的な学術知識および外国語・情報処理の能力を身につけ、基礎的なフィールドワーク（地域調査）を体験し、その成果を集団で公表して質疑に答える能力を養う。

2～3年次では、基本的な社会科学・人文科学の研究法等をふまえ、多彩な講義・演習・実習を通じて、地域社会あるいは地域文化を主体的に研究する基本能力、地域で役立つコミュニケーション能力（応用的な外国語能力を含む）を身につける。そのうえで、多様な地域社会・人間文化に関わる専門的な研究能力を高めるとともに、地域連携あるいは地域研究の実際を体験する。その成果発表をより洗練されたかたちで公表し、地域との対話が可能となる能力を磨く。

4年次では、地域社会・人間文化に関わる勉学の集大成として、卒業研究を学術論文として仕上げ、ローカルおよびグローバルな観点から問題を見だし解決を図る地域現場での実践力を養成する。